

第104回 知的コミュニティ基盤研究センター 研究談話会

講演者：福原直樹 氏

筑波大学新聞編集代表/筑波大学教授

(広報室・ジャーナリズム論)

演題「記者の行動パターンを考えた 効果的な情報発信の方法」

概要：大手紙での30年の記者／特派員生活後、筑波大学に赴任して感じたのは——まことに僭越ながら——優秀な研究者の中に、マスコミへの発信力がない、または発信することを気にはかけていないひとが多い、ということだった。20年前ならば、それで許されていたかもしれない。だが、市民に自らの素晴らしい研究成果を、わかり易い形で発信するのは、今の研究者の義務の1つであることは間違いない。効果的な情報発信には、マスコミが、そしてその記者が何を考え、何を求めているかを知ることが必要だ。彼らの行動様式を「分析」し、それに基づいた研究者の効果的な情報発信の方法を模索したい。孫子曰く、彼を知り己を知れば百戦して殆うからず……。

<プロフィール> 福原直樹 1957年2月東京都生まれ。1982年毎日新聞社入社。同社静岡支局、東京本社 社会部警視庁担当などを経て、1995年から2011年までジュネーブ、ブリュッセル、パリ各特派員。2012年から現職。著書に『組織暴力を追う』（共著、毎日新聞社、1992年）、『霞が関シンドローム・官僚腐敗を追う』（共著、毎日新聞社、1994年）、『黒いスイス』（新潮新書、2004年）など。ブリュッセル自由大学卒（修士・国際関係論）。

2013年9月27日（金）

14:00 - 15:00

筑波大学 筑波キャンパス春日エリア

情報メディアエニオン3階

共同研究会議室1

言語は日本語で
す。参加費無料、
参加申込不要

The seminar
will be presented
in Japanese.

お問い合わせ先：知的コミュニティ基盤研究センター

Research Center for Knowledge Communities, University of Tsukuba

Tel: 029-859-1524, Ext.:81524 E-mail: kc-office@ml.cc.tsukuba.ac.jp